

第2回学校運営協議会記録

1 日時 平成28年6月30日(木) 19:00~20:30 学校運営協議会

2 場所 学校運営協議会 北海道知内高等学校(校長室)

3 次第

(1) 学校概況説明

ア 学習状況について(中間考査を終えて)

イ 模試受験者の推移について

ウ 学校行事について(ふるさと調理実習・高体連結果)

(2) 今後の活動について

ア 学校視察 (7/9・10)

イ 学校説明会視察 (7/21・9/24)

ウ 生徒募集に係る中学校訪問(8月~9月)

(3) その他

ア 学校祭各行事の審査員の依頼について(3名)

イ 講演、学校視察など

ウ 次回開催日程について

5 協議内容

委員 本日は、今年度最初の考査であります中間考査を終えまして、その成果と課題を中心に、進路や学校の課題について様々な角度からご意見を頂きたいと思っております。よろしくお願ひします。

委員 考査への取り組みや結果から、昨年度より課題であった、学習への取り組みが良い方向へ向かっているのかと感じております。またその裏には、学習規律の精査や、校内での内規の見直しの成果が合ったのかと思ひます。

事務局 今年度、知内高校では「家庭学習」を大きな柱に学習活動を展開しています。生徒が、やらされる学習から、生徒自身が自分の将来を考えて、学習の意味を見つけ、自ら学習へ向かう態度を育成していきたいという考査です。生徒が自分自身の将来を主体的に考えることができれば、進路の目標が見え、学習に目的が発生すると考査しています。生徒に「家庭学習=自主的な学習」の習慣を定着させていくために、学校の体制、教員の意識を年度の当初に確認しました。

また「定期考査の実施方法について」共通認識を促しました。生徒に定期考査にむかう意識を持たせるために、我々教員側の準備や動きを早めました。その結果、考査の1週間前には学校に無用に残らず、下校し、自ら学習にむかうという雰囲気作りができました。成果としては、昨年と同時期の中間考査の成績不振者数と今年度を比較しても大幅に減少しました。

課題として、次の考査時に生徒が考査へ向けて、自主的に学習を始めるかどうかです。また、今回成績不振者となった生徒に対するケアが次回の考査で成果となるかどうかも見守っていきたいところです。生徒も教員も家庭も学習への準備や計画が大切であると感じ、将来や進路へつながっているという実感が持てるような活動にしていきます。

委員 知内高校の校内の各考査の平均点が50～70点であることの妥当性が、進路や他の高校の比較という点でどうなのかと感じます。教科書のレベルと合っているのかどうか、平均点が上がれば、学習の内容をもっとレベルをあげていくのか。いわゆる生徒の引き上げが今後できていくのかどうか。それと、成績不振者への具体的なケアはどのようにしていくのか。

事務局 校内の学習レベルの引き上げや外部（進学）との妥当性については課題であると感じます。積極的な模試への取り組みや、勉強合宿等も企画されはじめていますので、生徒の意欲がではじめる前に学校側の体制もつくっていきたいです。

成績不振者へのケアですが、その生徒の背景をとらえた上で、面談、教育相談を実施し、考査から見える生徒の課題をとらえてもらいたいと思っています。現在、全員面談を終えておりますが、生徒と今回の原因や今後の課題について話が出来ている状況です。

事務局 今後は模試に関する状況も具体的に提示していきます。生徒募集面からも、各部活動が活躍しており、野球部は残念ながら支部で敗退しましたが、生活面からの鍛え直しということで、すでに新チームが始動しています。また、陸上部員、女子柔道の全道大会出場。女子バレーボール部の支部ベスト8進出などがあげられます。特にバレーボールは、本町では多くの人に親しまれている町技でもあります。陸上の話題では、本校の京谷萌子教諭が陸上競技全日本選手権、女子高跳びで優勝しました。日本一の選手が教員である本校の陸上部のPRもしていきたいところです。知内高校を進学希望にしている中学生の様々なニーズに応えていける魅力的な部活動の推進もしていきたいと考えています。学校説明会については、近隣の中学校を中心に生徒募集の重点としています。

学校パンフレットを新調し、中学校へ向けた説明会のポスターを作成しました。委員の御意見を頂いていた、説明会に在校生を引率しPRをするという計画も考えております。

委員 北海道PTA連合大会（函館大会）分化会当番の様子をお伝えします。

学校の規模によりPTAとのつながりが様々であるが、知内高校はとても良い状況にあると実感することができました。また、学校運営協議会に対する質問を多くいただき、運営協議会があることで学校の考えも理解することができるという利点を改めて感じました。他地域から本校の運営協議会についてヒアリングに来るなど、この先、運営協議会の意味がもっと深くなっていくのかと感じております。

委員 大学等の進学について、私立大学等の指定校はあるのかどうか。学業はもちろん、部活動等での活躍した生徒を評価して、進学につなげるということもありますか。

事務局 指定校の一覧等もきていますので、次回お見せいたします。生徒のあらゆるニーズに応えて、力を伸ばしていき、進路へつなげていきたいと考えております。

委員 やはりそのためにも、学力が重要であると思います。いわゆる評定平均の高さやセンター試験への対策も重要となってくると思います。今回の中間考査のベースは授業にあり、一定の成果ができています。生徒の進路意欲を喚起し、動機付けをしっかりとってほしいです。また、指導要領の転換を含めた社会の大きな変化、教育の指針の変化にも対応できる人材の育成を考えていかなくてはならないと感じています。

委員 個々の生徒の意欲や長所をとことん伸ばしてあげることが重要であると感じています。そして全体を引き上げていくということとのバランスを考えていくと良いと思います。そのことが、生徒募集や在校生の資質をあげていくことにつながると思います。進路の意識という点では、知内高校の過去の進学実績等は生徒募集に生かされているのかどうでしょうか。今後は生かしていける良いと思います。

委員 今年度のパンフレットはタイトルが「知内」と見栄えも良く、インパクトもありとても良いと感じています。「知内」という町名の語源を知る等、愛校心や郷土心を教員も生徒も持つことは大切です。

委員 渡島でも高齢化が進み、企業も都市部中心志向が強い中、地元の企業に高校がどう発信していくか。企業訪問やインターンシップの活用が増していると思います。

事務局 高校からの情報発信としては、HPの内容等を少しずつ改善し、遠方の保護者にも見ていただけるように各種便りを掲載しております。是非見てください。

委員 進路説明会に参加しましたが、非常にわかりやすかったです。内容としては1学年の時から進路へ向けては成績が大切であることや、成績に対する取り組みや成果が、進学に対する経費の軽減にもつながるということです。また、学業を頑張っていれば、就職や大学に必ずつながることや3学年になってからでは遅いということもあらためて聞くことができ良かったです。保護者が聞いていけば家庭で子どもとも会話ができることからたくさんの人にきてもらう価値があると感じました。

委員 大学のキャンパス校等の誘致はどうでしょうか。そのような方法も学校でどこまでできるかわかりませんが、発想としても良いかと思います。

委員 進学については特に東北方面を視野に入れてのPRも積極的にしていくことも考えてはどうか。

事務局 1学年の宿泊研修では就職方面では工場見学、進学方面では公立のはこだて未来大学の見学に行きました。1学年から見学することで進路の意識がしっかりつくと思います。